

町田市議会議員候補に向けた公開質問状の回答について

2018.2.19.鈴木真佐世

まちだ未来の会では、今後4年間の町田の市政を委ねる市長候補及び市議会議員候補の皆様に、公開質問状を2月初めにお送りし、14日の締め切りまでに届いた回答を今回の学習会に合わせて、大急ぎでまとめました。集計してデータを印刷した後に届きました4名の方のデータは、第10回学習会での考察の数字には入れられませんでした。なお、今回ホームページに公表するデータ及び考察には、4名の方のデータを加えております。

まず、市議候補の皆様には、町田市5ヶ年計画17-21においての文化歴史、生涯学習に対する考え方、また公共施設再編計画におけるそれらの文化施設に対する考え方、12年間の石坂市政についての評価などを伺い、最後に当選した場合にどのような分野に力を入れたいと考えられるかを伺いました。

まずまとめの表の見方を説明いたします。

回答者が24人で、縦に並んでいます。1枚目が右に問の1から問3まで、2枚目が問4から問6まで、3枚目が問7と問8となっています。

まとめたデータについて簡単に報告させていただきます。

- ① いただいた回答の自由記述の部分は、語尾の「思います」等は省略させていただいた部分もありますが、それ以外は回答者の文言そのままです。
- ② 回答者がその他の欄に○をして、更にコメントを書いている場合は、○とコメントが記入してあります。また、○がイとかウとかの欄にあつて、その他のところに記述がある場合は、そのコメントのみを記入してあります。
- ③ 3ページ目の問8の回答の後に書いてある未来派指数というのは、まちだ未来の会の考え方にどれくらい近いかを計ったものです。
まず、それぞれの設問の選択肢に点数をつけました。アイウエオとありますと、アが1点、イが2点、ウが3点、エが4点、オが5点というように、右に行くほどまちだ未来の会の考え方に近いということで点が高くなります。その合計点が満点に対して何パーセントかを出し、それをその方の回答の点数としました。
- ④ お一人お一人の回答については、まとめの表をご覧ください。

問1：「町田市5ヶ年計画17-21」（以下、「5ヶ年計画」）には、103項目（再掲事業を含む）の「重点事業プラン」が掲げられていますが、町田市の歴史・文化や生涯学習の振興を促す事業はほとんど皆無といった状況です。このことについて、あなたはどうお考えですか。という問いに対しては、イの「限られた財源でやむを得ない」という回答が5人ありますが、ウの「均衡を失って大いに問題」と答えた人が3人、そのうちの1人は「5ヶ年計画17-21」は、財政難を強調しながら、市民負担増と市民サービス削減をするもので、その金で4つの公園に200億円を費やす内容で、市民犠牲の計画だと書いていました。そして、党派を超えて17人という多くの方がエの「その他」。自由記述に、歴史、文化、生涯学習の振興は重

要なのでもっと力を入れる必要があるというように回答されました。経済不況の中、民間は目先のことに終始せざるをえない今こそ、官の役割は次世代の社会を担っていく人間を育てていくこととの言葉もありました。

私たちまちだ未来の会では、公共施設再編計画の上位計画であるこの5か年計画で市の歴史・文化や生涯学習の振興がほとんど取り上げられていないことに大きな疑問を持っていましたので、多くの市議候補の方たちもこのことを問題にしているという感触を得ました。

問2：「5カ年計画」では、(仮称)国際工芸美術館などの建設計画の一方、市立博物館については廃止を謳っています。町田市には、多くの自治体にある地域の歴史や民俗を総合的に扱う施設がありませんが、その点をどうお考えですか。という問いに対しては、イの「学校の余裕教室などを活用することで、郷土資料館的な機能は十分果たすことができる」とした人が3人、ウの「ぜひとも郷土資料館は必要であり、専用の施設を設置すべきだ」とした人が7人、エの「その他」が13人。自由記述に、同趣旨の請願が市議会で採択された。現存する施設の手直し、施設の意義を理解しないままにすすめるのはよくないという意見、市の単独財源では困難、都や国の補助を求める、版画美術館を増設して博物館機能を持たせるなどの意見がありました。

問1で、市の歴史文化、生涯学習の振興をもっときちんとすることに賛成という点でかなり一致しても、実際に施設の問題となると、意見が分かれてくるようです。

問3：町田市には現在図書館が8館ありますが、「5カ年計画」では地域図書館の統廃合についても言及されています。この点について、お考えをお聞かせください。という問いに対しては、イの「最低限、現在の図書館数を維持すべきだ」が7名、ウの「現在の図書館数を維持するのはもちろん、市民が等しく図書館サービスを楽しむよう必要な地域に図書館を新設すべきだ」が5人、「市民が主体のまちづくりに地域図書館は必要不可欠。小規模な図書館を含めて増やしていくべき」との記述がありました。エの「その他」が11人。自由記述には、ウだけれど、再配置をという意見や、統廃合よりは、図書館でもっとほかのサービスも受けられるようにするなどの意見がありましたが、アの「統廃合もやむを得ない」とする意見はありませんでした。これは、多くの市民の声を代表していると思います。

問4：「5カ年計画」では、「図書館の再編を推進」する理由として、「貸出冊数は減少傾向にあること など」を挙げていますが、貸出冊数の減少の主な要因は、資料購入費の大幅な削減にあると考えます。実際に、図書館の資料購入費が2012年度99,413,226円から2016年度40,909,232円(決算ベース)と半分以下になっています。この点について、お考えをお聞かせください。という問いに対して、アの「もっと減らすこともやむを得ない」とイ「の現状を維持」に丸を付けた人はいなくて、ウの「2012年度水準は無理にしても、現状では低すぎるので一定の増額が必要である」が10人、エの「せめて2012年度水準まで戻すべきである」が5人。「5か年計画の大型開発偏重の内容を改めれば、図書購入費を増やし、2012年水準に戻すことは可能」とする意見もありました。オの「その他」は7人。自由記述では、増額は必要だが適正水準は慎重な見極

めが必要とか、市民に寄付を募る、IT 化の時代に照らして質量ともに充実が必要、図書の充実が利用者の増加につながるという意見などがありました。どこまでの増額が必要かは意見がわかるものの、全員が資料費の増加が必要としたので、ぜひ来年度の資料購入費の予算に反映させてもらいたいものです。

問5：「いま策定が進められている「町田市公共施設再編計画」（以下、「再編計画」）は、その存在や内容が必ずしも十分に市民に周知されておらず、理解も得られていないように思われます。この点をどうお考えですか。」という問いに対しては、アの「それなりに市民に周知されていると思う」も、イの「市は多くの市民に周知されるよう努力すべきだが、「総論賛成・各論反対」になりかねないので、各論についてはスケジュールに従い市が主導して決めるべきである」という回答は一つもなく、13人がウ「市はもっと多くの市民に周知されるよう努力すべきであり、それまでは計画づくりを拙速に進めるべきではない」に○をしています。エの「その他」が10人。自由記述では、各論については市民の声を積極的に聞くべき、個別施設の存廃の話になると、必ず総論賛成各論反対の厳しい話になってしまうので、その前段の、個別施設の在り方論とランドデザインをどう描くか、という視点で、市民参加の討議をすべきなどと書かれていました。市は、全市共通の総論的な説明会だけでなく、各地域毎の施設についての市民との話し合いの場を積極的に持ってもらいたいと思います。

問6：「再編計画」では、公共施設の建物と機能を分けて考えること、その上でできるだけ集約・統合することで施設総数を減らすことを前提としています。こうした考え方についてお伺いします。という問いに対しては、アの「これからの建替えや維持管理コストを考えれば、きわめて妥当な考え方である」という回答はなく、イ「建物と機能の分離や集約・統合といっても、施設ごとに環境や条件が異なるので、個々の施設に即して考えるべきである」に○をつけた人が一番多くて10人、ウの「市民の日常生活に不可欠な公共施設は、できる限り身近な場所に設置・存続すべきであり、原則として集約・統合はすべきではない」とした人が4人。エの「その他」は9人。自由記述では、「公共施設がなくなれば、地域コミュニティは崩壊。時間をかけて築き上げたコミュニティを守るためにも、公共施設は守らねばならない」「公共施設は市民の財産」という言葉もあり、「方針ありきで計画を作ることには無理がある。地域事情、施設特性によって集約、統合、残存を考えていくのが、当然」という意見、「集約・統合によって相乗効果も求める。コスト論だけで賛否を問うべきではない」とする意見、アとイの中間的な意見、イとウの中間的な意見など、主張は微妙にわかれていました。

問7：これまで12年間の石阪市政について、どのようにお考えですか。という問いに対しては、アの「大いに評価する」が2人、イの「まあ評価する」が10人、ウの「どちらとも言えない」が5人、エの「あまり評価しない」が1人、オの「全く評価しない」が4人でした。この結果は意外でした。「あまり評価しない」とする人がもっと多いのではないかと考えていたのですが、自民党、公明党の与党はイとするのは仕方ないとしても、アとする人もいたり、野党の方々の多くがウの「どちらとも言えない」と評価したのは、私たち市民感

覚とのずれを感じました。評価する理由として挙げているのが、行政改革や会計制度改革、子育て支援や高齢者福祉、ゴミ減量政策の成果などを挙げています。一方、評価できない点としては、野津田陸上競技場の改修計画が8年前に持ち上がってから、次々と改修が追加される現状は看過できない。野津田公園のみならず公園整備のあり方にも、多くの疑問を感じる。予算配分がシティーセールスに偏り過ぎ。行き過ぎた職員削減。図書館など悲鳴を上げている部署がある。若い世代の困りごとを理解できていない。男女平等参画の推進スピードが遅い。地方自治体の最大の役目は「住民福祉の増進」にあるのに、認可保育園の保育料、学童保育の育成料の値上げ、国民健康保険税の値上げや、市の施設の利用料を値上げし、全世代向けの負担増を行ってきた一方、大型開発には巨額の税金を使い、市民の生活、暮らしを圧迫してきたこと。自治体が株式会社化し、「価値」を高める投資が最優先。中心市街地のまちづくりは思うように進んでいない点。など多くの問題が挙げられていました。○の数による評価よりも、自由記述の欄に書かれていることに、現在の市政の問題があぶりだされているように思いました。

問8：あなたは市議会議員に当選した場合、特に町田市の行政のどのような分野に関心を持ち、力を注ごうとお考えですか。自由にお書きください。

この欄には、それぞれの方が力を注ごうとしているいろいろな分野、施策などを書いてくださっており、まとめてここで述べることができませんので、回答のまとめの表をゆっくりご覧いただき、25日の投票の参考になさってください。

先日、鶴川の柿の木文庫の乳幼児向けのおはなし会に来た若いお母さんにと話したときに、一人の方は、薬師池などの自然が近くにあって、住みやすく、子育てしやすいと話し、もう一人の方は、歩いて行けるとところに商店街と図書館があり、シャッター通りになっていないので、お年寄りもいらして、子供を遊ばせるところもあって、人との交わりがあって、とても魅力があると話していました。二人とも最近鶴川に越してみえた方です。

それなのに、何年も先の人口減、財政悪化ばかり気にして、外からの来る人を呼び込む賑わいを最優先して、身近にあってほしい施設がなくなり、市民の生活がどんどん魅力ないものになっていったら、外から町田に引っ越してくる人も減り、今住んでいる人も出ていってしまいます。若者にも子育て世代にも高齢者にも魅力ある町田にするためには、どこにお金を使うかを市に任せてはいけなしいと思います。市民が市のやることをしっかりと見て、どんどん意見を言っていかななくてはいけないとつくづく思いました。